

学位被授与者氏名	大津留 香織 (おおつる かおり)
論文題目	個人間紛争の当事者と調停者がつくる共同体はいかに文化的多元性を乗り越えたかーバヌアツ共和国のカスタムをめぐる修復的司法の事例より
論文審査結果の要旨	<p>論文の前段では近代司法裁判における代替紛争解決 (ADR) および修復的司法 (RJ) を詳細にレビューしており、本研究の法人類学上の位置づけが明確にされている。そのうえで、事例資料が少ない近代西洋以外の地域社会における紛争解決に関する事例を紹介し、緻密な分析をおこなっている。ただし調査における聞き取りは、当事者の一部だけを対象にしておこなわれたものであり、事実関係の検証性に欠ける点が残念である。また事例は事故 (民事) における示談であるが、法学的見地から RJ 有効性を検証するのであれば、殺人や窃盗など刑事におけるバヌアツの事例をぜひとも検討してほしい。</p> <p>本論で取り扱われている事例は、伝統社会と近代社会が融合するバヌアツ共和国の首都におけるもので、多文化複合の例として多くの示唆に富んでいる。かたやオーストラリア人の法学の専門家、かたやバヌアツ共和国の中でも呪術が根強く残るアンブリム者出身者という特殊な紛争当事者同士にたいして、フツナ島のチーフが「カスタム」の手法を用い文化を越えて関係性を築いていく過程の記述は興味が尽きない。</p> <p>著者は本文中で、「当事者の満足に到達するために重要な役割を果たすものとは、客観的事実に基づく出来事の抽象的把握ではなく『コミュニティ上の当事者』と、真実を追究する過程で生じる『紛争の個別性 (特別性)』、そして『新たな関係性 (共同体) とその維持』であることを明らかにする。」と述べている。この共同体は当事者だけでなく調停者も含んでいるという点で、非常にユニークなものである。今後この研究成果が、人間社会の規範や道徳の起源など、ヒトの普遍特性の解明に貢献をもたらすことが期待される。</p> <p>なお、本学生は、引き続き博士後期課程においてさらに研究を進めたいという希望を持っている。また当該論文は 2011 年 3 月に兵庫で開催される第 19 回生態人類学会において発表を予定している。</p> <p>平成 24 年 2 月 20 日に、北九州市立大学北方キャンパス 4 号館 4-101 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士 (人間関係学) として十分な内容であると判定した。</p>